

◎6月11日(日)開催 第2985回例会  
兵岳連同調 自然観察山歩

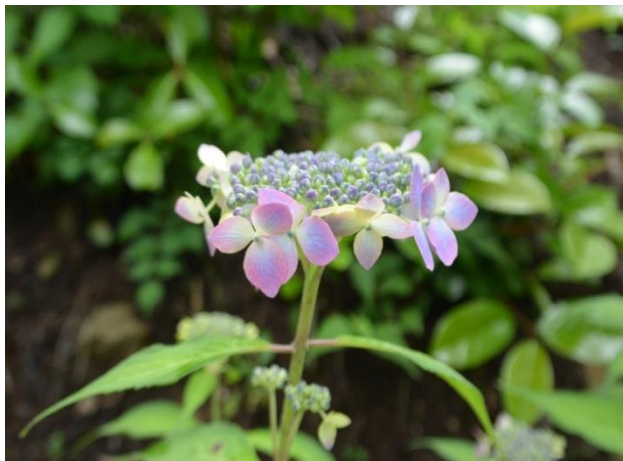
「炭ヶ谷から石楠花山周辺を辿る」を案内して  
兵岳連普及委員会委員長 H.Y

昨夜から心配していた兵庫県南部の降水確率は、朝6時の時点で午前30%・午後10%。ヤキモキしていた気分を払拭し、家を出る。新神戸から谷上までの北神急行は、時間にしてわずか8分であり大変便利だが、市営地下鉄の運賃に比べるとかなり割高な感じがする。しかし、六甲山の横っ腹に穴を開ける(トンネル)という難工事のお陰であるから360円はむしろ安い!・・納得せねば・・などと思っている間に谷上駅に着いた。



住宅街の空き地にて準備体操を。

集合時間の9時には予想以上の**54名が参加**。引率する側も自然と気合が入る。駅前ではこんなに多くの方に準備体操をして頂く場所が無い



今年は開花遅く、小ぶりなヤマアジサイ(イメージ)

ので、登山道入り口近くまで移動の後、行った。登山道入口は住宅街の東のつきあたり。古い竹林の間を縫って上るとすぐに阪神高速北神戸線の橋脚手前の舗装路に出る。渡った所からが、炭ヶ谷道である。この谷には短い距離の間に、



炭窯(すみがま)が名残りを留めている

古い堰堤が3つも有る。竹林のあるデルタ状の地形から推測すると、昔は度々水の災害に見舞われ、大切な田畑が被害を被ったのだらうと思われる。又、この辺りの農民は、農閑期の冬場、盛んに炭作りをし、生活費を捻出したのだらう、



炭ヶ谷の核心部を行く参加者

谷の左右のあちこちに窯跡らしき窪みがみられた。そのあたりから3分程(標高550m地点)で谷の両側が狭まり、炭ヶ谷の核心部に行くことになる。谷の水が無くなるとすぐ峠に出る。四差路になった登山道は、左奥が双子山へ。左の下りがマムシ谷・セール道から摩耶山へ。正面を下ると石楠花山方面へのハイキング道。そして右への道は烏帽子岩に通ずる道である。



岩の下へ廻って見て初めて烏帽子に見える岩

少し休憩を取った後、烏帽子岩の見学に誘導。



石楠花山山頂(651.9M)の二等三角点

烏帽子岩は、岩を廻って下側から眺めると、なるほど烏帽子のスタイル岩だと感じるだろう。何分にも54人もの大所帯なので、岩を時計回りに順序良く廻って、少し引き返した所から石楠花山頂を目指した。二等三角点のある山頂は、メイン道から少し入った所なので初めてのハイカーなら少し解りづらいただろう。

そこからものの100メートルも進めば、石楠花山の展望台に出る。昼食後、そこにザックを置いて本日のハイライトである天狗岩からの展望を楽しもう!・・・とっていたのだが、空模様を怪しく感じたので先に岩場へ行くことにした。



天狗岩で展望を楽しむ皆さん・・・そのI

天狗岩の上は狭い為、10名ずつ順番で眺めて頂くことにした。淡路大橋や旗振山から再度山へと続く縦走路山脈。右へ目をやれば、丹上山系がすべて望めるという素晴らしい場所で、眺めに飽きることはない。皆さんもう少しゆっくり



天狗岩で展望を楽しむ皆さん・・・そのII

したかったことだろうと少し気を使う・・・。

全員天狗岩の眺望を体験し、石楠花山展望台付近で昼食を・・・と思ったとたん、気にしていた雨雲が付近を通りすぎて行った。幸い大したことなく、小雨はすぐに止んだが体感温度は下界と5～6度違ってきていたと思われる。夏場であっても暖かい湯が入ったテルモスと、薄いウール系統のアンダーシャツは必携であろう。



環境省神戸保護官事務所のA・R高橋さんのお話し

食後、環境省神戸保護官事務所より同行くださっているお馴染みのアクティブレジャー高橋さんより「ジオパーク」についての詳しい説明があった。ジオパークの「ジオ」とは地球・大地、「パーク」は公園。したがって「大地の公園」を意味し、地球を丸ごと楽しむことができる場所のことを言うとのことでした。日本には43地域が指定されており、その内の8地域はユネスコ世界ジオパークの仲間入りもしているとの



岳連藤崎理事より地形に関する講義

ことであった。引続き、岳連藤崎理事より石楠花山周辺の地形や地名に関するお話しをして頂いた。

「神戸は明治時代から多くの外国人が住み、六甲山の開発に拘ってきた。六甲山開祖の父と言われたA.H.グループが開いたゴルフ場も、冬場はオフとなるのでその間は登山活動を活発に行うようになった。六甲山上ではそんな関係か、欧風のカタカナの地名や登山道の名が数多く残っている。ドントリッジやシェール道。カスケードバレーやダイヤモンドポイント等々・・・。これから下る「黄蓮谷（オーレンだに）」は当時この辺りを盛んに歩いたと思われるJ.P.ワーレンの発音がオーレンと聞き取られ日本名では「黄蓮谷」となったのかもしれない。それとも、「オウレン（和名/黄蓮）」とはキンポウゲ科の植物で、根は漢方薬として使われていたらしく、この植物がこの谷辺りに多くあった？・・・為なのか、名の由来は定かではないようだ。



黄蓮谷・徳川道出合への道標

講義終了後は寒さも手伝ってか、ゆっくり周辺の散策をする間もなく黄蓮谷へ向け出発した。森林植物園内で解散予定であったが、ツエントクロスを新神戸まで下るといふ参加者も多かったため、植物園の東門入口へ入る手前で解散とした。

天候 曇り

参加者 54名（当会員37名）